

- 開催日時：2018 年（平成 30 年）8 月 16 日（木）午後 2 時～4 時 25 分
- 開催場所：市役所 5 階第 6 会議室
- 出席委員：伊藤裕夫委員長、富岡幸一郎副委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員
- 欠席委員：無し
- 事務局：文化スポーツ課 阿万野課長、土屋係長、鬼原主事、森主事
- 会議の公開・非公開：公開
- 傍聴者数：0 名
- 議題：1 平成 29 年度事業に関する評価について
2 その他

■資料：

【事前送付資料】

- 資料 1 第 1 回会議議事録（案）※当日差替え
- 資料 2 平成 29 年度事業に関する評価報告書（案）※委員の意見まとめ案まで記入のもの

【当日配付資料】

- 次第
- 名簿
- 資料 3 平成 30 年度（平成 29 年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書（案）（抜粋）

■内容

1 開 会

定数確認

資料の確認

<委員長>

議事に入る前に、第 1 回会議の議事録（案）について承認するか諮る。内容について、承認してよろしいか。

<全委員>

（異議なし）

<委員長>

第 1 回会議の議事録について、案のとおり内容を確定する。会議中に修正等について気が付いたことがあれば発言願いたい。

2 議 事

(1) 平成 29 年度事業に関する評価について

<委員長>

議題 1 「平成 29 年度事業に関する評価について」、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料 2 をご覧いただきたい。評価報告書（案）になる。

全体の構成について。趣旨、調査・評価の対象と方法、総括、評価シート、参考資料、からなる。

本日の会議では、はじめに評価シートの「委員の意見」欄について、その後に、趣旨、総括についてご審議いただく。

4 頁以降の評価シートは、第 1 回会議で様式を決定していただき、文化振興所管課（文化スポーツ課）による自己評価を記入の後、委員の皆様から「委員の意見」をいただいた。「委員の意見」欄には、個々の委員の意見そのままを写したものと、それを事務局で要約したまとめ案の両方が記載してある。本日は、まとめ案の内容や、加筆修正等についてご審議いただきたい。

審議は 6 つの「施策の柱」毎に進めていただきたい。

<事務局>

資料 2 7 頁（1）地域文化の担い手の育成（自己評価、委員の意見、まとめ案について読み上げ）

<委員長>

審議に入る前に確認しておく。「委員会の評価」は、最終的に委員会全体での意見としてまとめる。資料 2 の「委員の意見」欄には、各委員の意見とまとめ案の両方が記載されているが、これからの審議に当たっては、皆さんの意見がまとめ案にきちんと含まれているか、他の委員の意見を読んで別の意見が出た場合はそれについて、述べていただきたい。なお、評価報告書には、全体での意見としてのまとめのみを記載することになる。

はじめに（1）地域文化の担い手の育成、について審議する。

<奥野委員>

8 頁のまとめ案に（企画者数の増？認知度や関心の高さ？）とあるが、文章中に？マークがあるのはいかがか。

<委員長>

今後の議論の中で明確にしていく。まず、「委員の意見」の各委員の意見を読んで疑問、質問等あればお願いしたい。

<全委員>

（特になし）

<委員長>

次に、まとめ案について、意見をいただきたい。

<副委員長>

小中学校でのアウトリーチについて「質的な部分での充実度合いを測っておきたい」とあるのは、定量的に充実度を測っておく、という意味でよいか。あるいは充実度合いを高める、

の意味か。充実度合いを具体的に数量化することはできるか。

〈委員長〉

実際に数値化は難しいと思う。むしろ定性的に把握しておく、ということになると思う。アウトリーチにも様々なパターンがあり、鑑賞等の体験型と、ワークショップ等の参加型とに大きく分かれるが、参加型については20名程度が適当な人数といえる。報告には参加者90名という記載が見受けられ、体験型のアウトリーチ中心だったのかと推察できるが、その辺りを明確にしておきたい。

〈事務局〉

小中学校でのアウトリーチは、学年ごとに体験型が多い。その他、昨年度は子育て支援センターでアウトリーチを実施した。

〈副委員長〉

充実度合いを数値化するのではなく、高めるという意味が正しいか。「測る」と書くと数値化の意味合いが強くなる。

〈事務局〉

数値化という意味で捉えたため「測る」としたが、いかがか。

〈委員長〉

アウトカムの場合は、ベンチマークとして数値化するのであるが、この場合は、定性的であっても定量的であっても良くて「充実したものになっているかきちんと調べてほしい」というのがニュアンスとしてよい。

〈委員長〉

(企画者数の増?認知度や関心の高さ?)の意図としては、市民の参加の仕方には、サポーターになる方もいれば、実行委員会に入る方もいる、企画をする、単に観に行くという方もいる、そのなかからボランティア等の参画につながっていけばよい、ということである。

〈山崎委員〉

「市民企画やボランティアの質の向上と、市民の参加度合い(企画者数の数?認知度や関心の高さ?)の向上にも努めてもらいたい」を「市民企画やボランティアの質の向上や多様な参加に努めてもらいたい」としてはどうか。

〈全委員〉

(異議なし)

〈副委員長〉

「市民企画やボランティアの参加数の参加者数が増えていることは」で、参加数、がダブっているのを修正してほしい。

〈委員長〉

「委員会の評価」 a. b. c. 段階についてはどうか。これまでのまとめ案に関する審議からすると、今後に向けた前向きな改善についての意見が多いようだ。(1)から(6)の「施策の柱」全ての「委員の意見」について審議した上で、全体のバランスを見ながら決めていくこととする。

〈事務局〉

資料2 9頁(2)市民文化活動の活性化(自己評価、委員の意見、まとめ案について読

み上げ)

<委員長>

「委員の意見」に、事実関係として、皆さんの意見がきちんと反映されているか等意見を願います。特に無ければ、内容について審議に入る。

質問だが、文化プラザホール（以下「ホール」という。）のイベント企画講座には、どのような方が参加したのか。

<事務局>

参加者がどのような方だったかまでは把握していない。鑑賞系事業の催事の前に、バックステージツアーを行い、ホールの使い方等をレクチャーしたとのことである。

<委員長>

この講座の狙いとしては、参加者にホールについてよく知っていただき、将来的に企画を立案してホールを使ってほしい、ということでしょうか。

<事務局>

そのとおりである。

<奥野委員>

まとめ案の最後「他の市民文化団体との連携についても検討してほしい」というのは、具体的にはどのような団体のことを言うのか。

<事務局>

具体的にこの団体、というのはないが、今年度、逗子アートネットワークが逗子アートフェスティバルを企画運営することになり、既存の市民文化団体との連携等が今のところ見られないところがあるので、そのことについてもっと広げていくべきという意味で捉えた。

<委員長>

逗子アートネットワークについては、今年度できたばかりなので、評価としては「期待する」としかできない。逗子には様々な市民文化団体がある。活性化しているが、団体どうしの意思疎通についてはいまいち進んでいない。そのような中で、逗子アートフェスティバルが一つのプラットフォームとなることを期待する部分もある。

<山崎委員>

以前まちなかアカデミーには、市民文化活動のプラットフォームとして育成するというのが目的にあった。現在の活動が、こうしたことの積み重ねの上にあると考えると、今後は、その良い面も悪い面も拾い上げながら連携し、展開、発展をさせていくというニュアンスを具体的に入れてはどうか。「これまで積み上げてきた市民活動を有効活用し」といった内容である。継続性という意味で、「今までのものを活かしつつ」という意味である。

<事務局>

市民文化団体どうしに横のつながりがあまりない状態なので、今後連携させていく仕組みが必要と思う。また、団体それぞれを所管する課どうしでも連携が図れていないのが現状である。

<奥野委員>

「委員会の意見」として、団体に携わる方に負担がない程度に指摘をしてもよいのではないか。

<事務局>

文化に携わる団体のいくつかは、逗子市文化振興基本計画策定・推進会議のメンバーとして参加している。その中で本委員会の意見を報告することで、連携について検討していただくことも検討したい。

〈委員長〉

このことについては、可能な範囲で「委員会の意見」に入れていただきたい。

〈事務局〉

資料2 11頁(3)文化芸術に接する機会の拡充(自己評価、委員の意見、まとめ案について読み上げ)

〈委員長〉

「委員の意見」に、事実関係として、皆さんの意見がきちんと反映されているか等意見をお願いします。特に無ければ、内容について審議に入る。

〈副委員長〉

文化プラザホールの入場者が年10万人以上というのは、過去から見ると増えているということか。

〈事務局〉

そのとおりである。平成29年度の利用人数は123,172人、平成28年度は130,260人で、28年度に比べて1万人程度増えている。

〈副委員長〉

満足度も高いということか。

〈事務局〉

高い状態を保っている。

〈委員長〉

自己評価をb.概ね順調であるとみなせる、としたのはなぜか。入場率が芳しくない事業があったからか。

〈事務局〉

そのとおりである。見直すべき点として、広報の仕方についても挙げており、それも踏まえてbとした。平成30年度からホールは指定管理第二期に入っているが、広報について広報戦略に基づき改善に向けて努力している。しかし、平成29年度の段階ではまだ反省すべき点があったため、b評価とした。

〈副委員長〉

文化行政については、とても努力されていると思う。

〈山崎委員〉

駅前にホールの掲示板を設置するという話が以前あったが、それは進捗しているか。

〈事務局〉

今のところ調整はできていない。

〈山崎委員〉

まとめ案の最後「広報面等の更なる協力が望まれる」について、協力という言葉よりもう少し強い言葉の方が良いのではないか。

〈委員長〉

ホールの自主文化事業や逗子アートフェスティバルに関する広報は、市として十分やっているが、市内における文化活動はそれだけではなく、市民による文化活動も多々ある。そういう市民文化団体に対する広報支援ということである。

〈山崎委員〉

「広報面等の更なる協力が望まれる」を「市による広報面等の更なる協力が望まれる」としてはどうか。

〈全委員〉

(異議なし)

〈委員長〉

ホール自主文化事業で、入場率が良くない催事があるのはある程度は仕方ないと思う。その後の課題をきちんと分析ができていればよい。ただ、自己評価はbとしているので、委員会としてもbが妥当と思う。いずれにしても、最後にもう一度審議する。

〈事務局〉

資料2 13頁(4)文化資源の活用による地域づくり(自己評価、委員の意見、まとめ案について読み上げ)

〈委員長〉

「委員の意見」に、事実関係として、皆さんの意見がきちんと反映されているか等意見を願う。特に無ければ、内容について審議に入る。

〈副委員長〉

自然の回廊プロジェクトについては、予算執行が停止して事業ができなかったとあるが、今後はどうなるのか。総合計画実施計画に位置付けられた事業であるが。

〈事務局〉

緊急財政対策プログラム上は、事業休止としており、平成30年度と31年度の執行はない。それ以後の復帰の可能性は分からない。

〈副委員長〉

復帰について委員会として意見した方が良いのではないか。

〈委員長〉

合わせてフィルムコミッションについても言及したい。

「目標の②豊かな自然環境の活用、については、自然の回廊プロジェクトが総合計画実施計画のリーディング事業であることもあり、予算制約の問題はあるが、今後も継続して取り組んでもらいたい」と一文加えるのはどうか。

〈全委員〉

(異議なし)

〈事務局〉

資料2 15頁(5)文化情報の収集と活用(自己評価、委員の意見、まとめ案について読み上げ)

〈委員長〉

「委員の意見」に、事実関係として、皆さんの意見がきちんと反映されているか等意見を

願います。特に無ければ、内容について審議に入る。

〈奥野委員〉

市民としては、市からの情報提供は大変重要で、それを紙媒体に頼っている状況というのはいかがか。ホームページやSNS等の活用はぜひお願いしたい。評価として私はcとしたが、今後の活動に期待するという意味から、bに修正する。

〈委員長〉

以前はまちなかアカデミーで情報のポータルサイトを開設するということだったが、そこから考えると、情報のネットワークづくりとしては比較的進んだと思う。

〈事務局〉

ホールの指定管理第二期に際しては、その目標として、ホールを拠点とした文化情報の発信を設定している。指定管理期間7年間の中で改善していく。

〈委員長〉

「今後、ホールを拠点とした文化情報の発信を市民にわかり易い形で行っていく」と踏み込んで「委員会の意見」に入れた方が良い。

〈山崎委員〉

目標の③（仮称）逗子アーカイブスの構築については、昨年度から逗子フォト事業を始めたとのことだが、自己評価はbとしているが、むしろずっと進捗のなかった事業が、逗子フォト事業という形でようやく動き出した、と思う。

〈委員長〉

このことについても「委員の意見」に入れてもよいと思う。

〈事務局〉

資料2 18頁（6）文化振興のための環境づくり（自己評価、委員の意見、まとめ案について読み上げ）

〈委員長〉

「委員の意見」に、事実関係として、皆さんの意見がきちんと反映されているか等意見を願います。特に無ければ、内容について審議に入る。

①③について該当する事業がない、としているので自己評価もc. 順調であるとみなせない、となったのか。

〈事務局〉

そのとおりである。

〈副委員長〉

目標の①行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備に「文化振興所管課を中心として」とあるが、これは文化スポーツ課を中心としてという意味でよいか。部課の再編という意味ではないか。

〈事務局〉

文化振興所管課を中心とした協力・連携ということである。

〈副委員長〉

どのようなプロセスを経て行うのか。

〈事務局〉

文化スポーツ課が呼び掛けて、ということになる。

<副委員長>

これはトップダウンで推し進めるような内容だと思う。政策的な位置づけが必要ではないか。その部分を委員意見に入れるべきではないか。

<委員長>

庁内連携については、逗子市文化振興基本計画（以下「計画」という。）の26頁、第3章「計画の推進にあたって」にも記載されている。

<副委員長>

まとめ案の最初の段落に「行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備はいま強く求められている」とあり、そのニュアンスは入っている。これを実現するために、具体的にどのような方法が必要か。

<山崎委員>

このことについて、自己評価では「組織横断的な推進体制の確立は、恒常的に整備するのは困難と思われる」としている。

<事務局>

平成30年度については、ホールと県立近代美術館葉山との連携等、個別の事業についての連携は始めている。

<副委員長>

組織横断的な推進体制があるかないかで、文化振興のあり方はずいぶん変わる。横断的な議論がないと進まないこともある。個々の課でアイデアが出てきても、行政として推進できる体制が整わないと実現しないことが多い。

<委員長>

個別の事業から協力・連携を進めるとしてはどうか。

<事務局>

文化振興所管課としては、まず文化財や社会教育講座を所管する社会教育課との連携が、必要と考えている。

<委員長>

以上で全ての「施策の柱」について「委員の意見」を見終えた。

今回から評価シートの様式を変え、計画の柱を基本として評価を行ったが、逗子アートフェスティバル等、同じ事業が何回も出てきたりして、評価しにくい部分もあった。この後趣旨、総括の審議を進むが、その前に、実際に評価した感想をお聞かせ願いたい。「委員会の評価」をa. b. c. 段階で評価するというのも初めてであった。そのことについても意見があればお願いしたい。

この委員会の目的は計画の評価であるので、理屈上は柱を中心とした評価が良いと思うが、実際に評価をすると結構厳しかった。

<山崎委員>

(6)について、「施策の柱」の3つの目標のうち、特にどれが重要かと考えると①と③だと思う。私はb. 概ね順調であるとみなせる、としたが、c. 順調であるとみなせない、に評価を修正したい。

他の「施策の柱」についても、そのうち特にどの目標が重要かを考えると、おのずと「委員会の評価」は導き出されると思う。

〈委員長〉

それでは「委員会の評価」 a. b. c. 段階について、あらためて（1）から見ていく。

（（1）地域文化の担い手の育成 目的の読み上げ）

〈山崎委員〉

私は b. 概ね順調であるとみなせる、としたが、 a. 順調である、に変更する。

〈委員長〉

全員が a. 順調である、の評価となったので、それで確定してよろしいか。

〈全委員〉

（異議なし）

〈委員長〉

（2）についてはどうか。（（2）市民文化活動の活性化 目的の読み上げ）

〈山崎委員〉

逗子アートネットワークの設立について評価できると思ったので、 a. 順調である、とした。

〈委員長〉

逗子アートネットワークも、イベント企画講座も、始まったばかりで今年度どのように展開していくかまだ見えないところがあるので、評価できないと思い、 b. 概ね順調であるとみなせる、と評価した。

〈事務局〉

a. b. c. 段階の評価付け自体についてはどうか。

〈副委員長〉

評価はした方がいいと思う。

〈山崎委員〉

b は、概ね順調である、とした方がより明確である。

〈委員長〉

a. b. c. 段階を「 a. 順調である」「 b. 概ね順調である」「 c. 順調であるとみなせない」と修正することでよいか。

〈全委員〉

（異議なし）

〈奥野委員〉

私は a. 順調である、が評価として適当だと思う。逗子アートネットワークを設立したことは市民活動上とても大きなことだと思う。

〈副委員長〉

その他にも、様々な試みがされている。

〈委員長〉

それでは「委員会の評価」を、 a. 順調である、としてよろしいか。

〈全委員〉

(異議なし)

<委員長>

(3) についてはどうか。((3) 文化芸術に接する機会の拡充 目的の読み上げ)

自己評価が b. 概ね順調であるとみなせる、となっている。今後、広報に力を入れていく方向であるとのことだがいかがか。 b. 概ね順調である、でよろしいか。

<全委員>

(異議なし)

<委員長>

(4) についてはどうか。((4) 文化資源の活用による地域づくり 目的の読み上げ)

b. 概ね順調である、でよろしいか。

<全委員>

(異議なし)

<委員長>

(5) についてはどうか。((5) 文化情報の収集と活用 目的の読み上げ) b. 概ね順調である、でよろしいか。

<全委員>

(異議なし)

<委員長>

「委員会の意見」には、③(仮称)逗子アーカイブスの構築に進捗があったことを加えていただきたい。

<委員長>

(6) についてはどうか。((6) 文化振興のための環境づくり 目的の読み上げ) 重要な目標である①③について、該当する事業なし、ということなので、c. 順調であるとみなせないとしてよいか。

<全委員>

(異議なし)

<委員長>

続けて、総括について、意見をいただきたい。はじめの段落は、今年度評価シートの様式を変更したことについてである。

中段以降については、評価シート上で数回に分かれて記載のあった、ホールと逗子アートフェスティバルに関してである。評価シートでの委員会の意見から、抜け落ち等ないかどうか確認願いたい。

<事務局>

(趣旨の中段以降、総括について読み上げ)

<副委員長>

大規模修繕に向けた近隣市町の同等施設との交流・連携等というのは、具体的にはどのようなことか。

<事務局>

昨年度、鎌倉芸術館が大規模改修したときに、鎌倉芸術館利用者の皆さんが逗子文化プラザホールを利用されたという状況があったので、ホールについてもそのようなことを想定した。

<委員長>

大規模修繕については削除してもよいのではないか。

<山崎委員>

(6)の①③に関する委員の意見を、政策的な意味からも、入れた方がよい。

<委員長>

「なお、将来確実に必要になる大規模修繕…実施してもらいたい。」までを削除し、総括の最後に「これらの事業を推進していくためにも、庁内の組織横断的な連携や、近隣市町、関連団体（文化施設・団体、NPO、大学等）との交流・連携体制を強化されたい。」と入れてはどうか。

<全委員>

（異議なし）

<委員長>

事務局から今後の進め方について説明をお願いします。

<事務局>

評価シートの「委員の意見」まとめ案の修正と、総括の修正を反映したものをまとめて、評価報告書（修正案）を全委員にお送りするので、確認いただき、更に修正等の意見があればお知らせいただきたい。それを更に反映させて、最終案とさせていただきます。

評価報告書は、10月中に教育委員会に報告する予定である。

<委員長>

最終案の確定については、委員長に一任いただきたいが、それでよろしいか。

<全委員>

（異議なし）

<委員長>

資料3について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料3をご覧ください。平成30年度（平成29年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書 案の一部抜粋である。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会では、平成20年度から、事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成していたが、補助執行である文化振興に係る文化スポーツ課所管の事業については昨年度から報告するようになった。資料3は、平成29年度の報告書（案）の一部抜粋になる。

このなかの「外部評価」については、本委員会で、本日も審議いただいた内容と、報告書

での意見を踏まえて記入をする。委員の皆様には、記入後送付するので、修正等意見があれば、お知らせいただきたい。

〈委員長〉

後日事務局より送付される逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書の「外部評価」の(案)について、修正等ご意見があれば、事務局に連絡してください。

(3) その他

〈委員長〉

本日の会議を全体通して、意見等あるか。

〈全委員〉

(特になし)

〈委員長〉

以上で「平成 30 年度 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 第 2 回会議」を終了する。

3 閉 会

以上